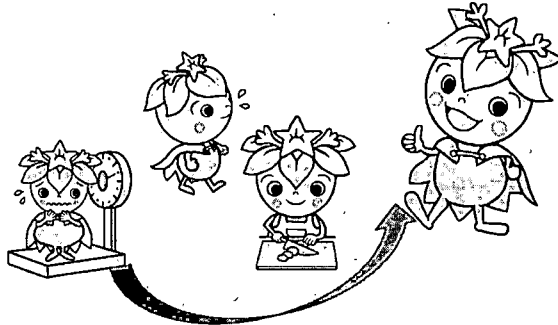


資料 6

国保特定健康診査・特定保健指導の実施状況



鎌倉市健康づくりキャラクター ささりん

【特定健康診査とは】

- ・メタボリックシンドロームに着目した生活習慣病の予防を目的とする
- ・平成20年度から医療保険者による実施を義務づけられている
- ・対象年齢は40歳から74歳
- ・生活習慣病改善に関する保健指導が必要な対象を階層化

【特定保健指導とは】

特定健康診査結果から、生活習慣病のリスクの高さにより階層化された対象へ、効果的な保健指導を実施（動機付け支援、積極的支援、情報提供）

保健指導レベルの階層化

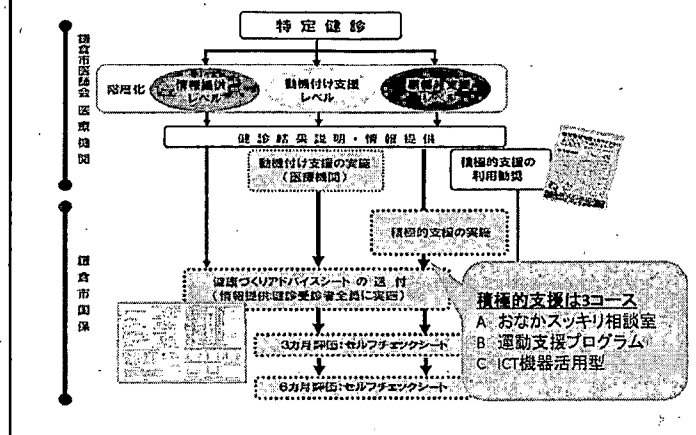
	追加リスク※ ①血糖 ②脂質 ③血圧	喫煙歴	対 象	
			40—64歳	65—74歳
腹囲 ≥85cm(男性) ≥90cm(女性)	2つ以上	あり	積極的 支援	動機付け 支援
	1つ該当	なし		
上記以外で BMI ≥ 25	3つ該当	あり	積極的 支援	動機付け 支援
	2つ該当	なし		
	1つ該当	なし		

※①血糖:HbA1c 5.6%以上

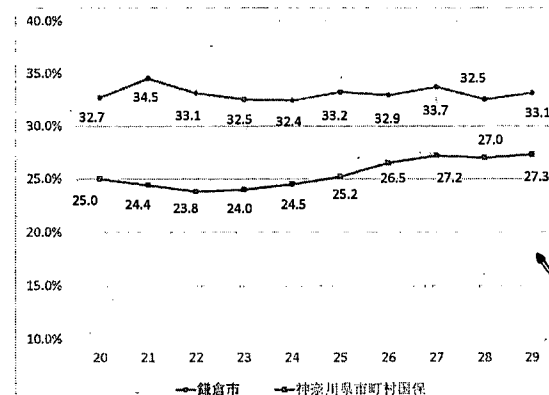
②脂質:中性脂肪150mg/dl以上またはHDLコレステロール40mg/dl未満

③血圧:収縮期血圧130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上

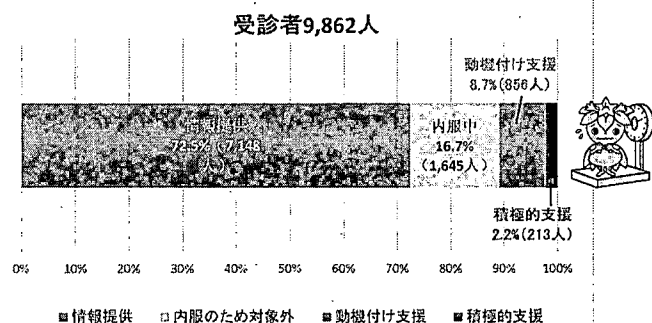
特定健診から特定保健指導への流れ



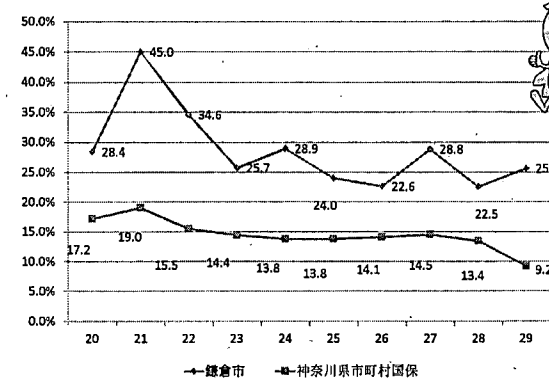
国保特定健康診査受診率【速報値】



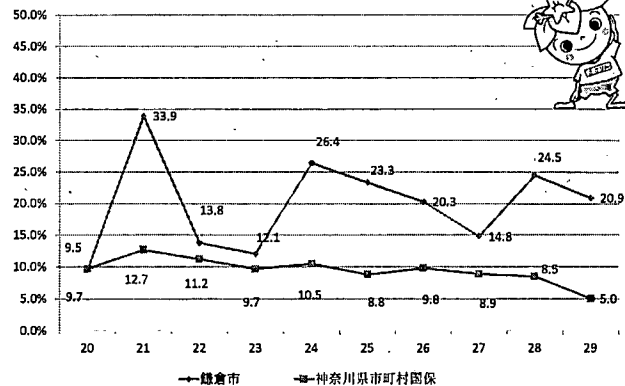
特定健診受診者の内訳(平成29年度)



国保特定保健指導 利用率【参考値】 (動機付け支援)



国保特定保健指導 利用率【参考値】 (積極的支援)



鎌倉市第2期データヘルス計画及び 第3期特定健康診査等実施計画

- 平成30年3月に策定。計画の期間は、平成30(2018)年度～平成35(2023)年度まで
- 平成27年度に策定した「鎌倉市第1期データヘルス計画」及びKDB※データ分析結果から課題を抽出し、今後の取組みと目標を設定

※KDB:国保データベース。国民健康保険被保険者の特定健診結果やレセプトデータを集約

鎌倉市第2期データヘルス計画及び 第3期特定健康診査等実施計画

<本市における課題>

生活習慣病が、死因別死亡全体の4分の1を占め、また入院外医療費の上位を占めているが、特定健康診査の受診率及び特定保健指導の利用率が低く、早期発見や重症化予防が課題となっている。

鎌倉市第2期データヘルス計画及び 第3期特定健康診査等実施計画

<課題解決に向けた対策>

- (1) 特定健康診査受診率の向上
→生活習慣病の早期発見
- (2) 特定保健指導利用率の向上
- (3) 生活習慣病重症化予防
→生活習慣病の早期治療と生活改善
- (4) 健康づくりに関する普及啓発
→生活習慣病の予防

特定健康診査受診率

現状値 33.1%(平成29年度)

目標値 45.0%(平成35年度)

→国は、平成35(2023)年度までに受診率60%を目標としているが、地域性等を考慮し、本市の目標値を設定。

13

対策(1)特定健診受診率向上に向けた取組①

未受診者への受診勧奨

平成29年度に初めて特定健診の対象となった40歳の方で、未受診だった方へ、受診勧奨のはがきを送付。

・平成30年8月送付(4～7月生まれ)
90件

14

対策(1)特定健診受診率向上に向けた取組②

生活習慣病治療中の者への受診勧奨
関係機関と連携し、受療時に対象者へ受診勧奨する。

・特定健診対象者のうち、生活習慣病治療中かつ未受診者 12,603人(40.8%)
(平成28年度)

15

対策(1)特定健診受診率向上に向けた取組③

人間ドック費用助成制度

40歳～74歳の鎌倉市国民健康保険加入者で、人間ドックの結果を提出した方に費用の助成を行う。(平成28年度から開始)

平成28年度	292件
平成29年度	432件

16

対策(1)特定健診受診率向上 に向けた取組④

ステップラリー

特定健診またはスマホdeドック(20歳～40歳未満を対象とした生活習慣病予防キット健診)受診等、を受診し、さらに健康づくりをしている方に景品をプレゼントする。

その他

事業主健診等の結果取得
スポーツ施設無料利用券・割引券の配布 など

17

特定保健指導利用率

現状(参考)値	動機付け支援	25.1%
	積極的支援	20.2%
	(平成29年度)	
目標値	45.0%(平成35年度)	

18

国保特定保健指導 (動機付け支援)

- ・原則、特定健康診査を受診した医療機関において、健診結果説明と共に実施
- ・医師又は管理栄養士、看護師による20分以上の面談
- ・生活習慣の振り返り、目標設定、行動計画を立案し、継続的に取り組む

3カ月、6カ月で支援アンケートを実施



19

国保特定保健指導 (積極的支援)



- ・おなかスッキリ相談室
保健師、栄養士による月1回の面談でご自身の食生活、運動習慣を振り返っていく
- ・運動支援プログラム
3カ月間、スポーツクラブの会員となり、個別メニューを元に運動中心で取り組んでいく
- ・ICT機器活用型プログラム(はかるだけダイエット)
スマホ等と連携する体組成計などを用い、体重などのデータをアプリで管理して行動計画に取り組んでいく

20

対策(2)特定保健指導利用率の向上 に向けた取組①

- ・電話等による利用勧奨
- ・健診実施医療機関からの
レッドカード配布
- ・個別プログラムの提供
(おなかすっきり相談室、運動支援プログラム、ICT機器活用型)

平成29年度12月～
遠隔面接対応プログラムを
導入

21

対策(2)特定保健指導利用率の向上 に向けた取組②

積極的支援プログラムの利用状況

	おなかすっきり	運動支援 プログラム	はかるだけダイエット (ICT機器活用型)
平成27年度	7人	25人	11人
平成28年度	9人	35人	8人
平成29年度	10人	27人	6人

→ 未利用者へは、個別に電話勧奨。
今後、未利用の理由について聞き取りを行い、改善
方法を検討していく。

22

生活習慣病の医療費の状況

- ・生活習慣病の医療費の状況
入院 50歳～64歳で
生活習慣病＞その他の疾病
入院外 糖尿病＞高血圧症＞脂質異常症
- ・人工透析患者の状況
患者数 109人(平成28年度)

23

対策(3)生活習慣病重症化予防 に向けた取組①

- ・糖尿病重症化予防
対象: 特定健診受診の結果HbA1c6.5以上で、
糖尿病の治療が確認できない人
方法: 電話による受療勧奨
- ・糖尿病性腎症重症化予防
対象: 40歳～74歳の国保加入者で
①特定健診受診者のうち、HbA1c・eGFR・尿たん白が
基準値以上
②糖尿病治療中かつeGFR・尿たん白が基準値以上
方法: 透析予防のための栄養指導

24

対策(4)健康づくりに関する普及啓発 に向けた取組

- ・未病センターかまくら(福祉センター1階)

健康測定機器による健康セルフチェック、専門職
(保健師、栄養士)による健康づくりアドバイス、健康
づくり情報コーナー設置 等

月～金(休日を除く) 10時～15時に開設

→土・休日に、地域のイベント等に出張し、健康
づくりへの啓発をはかっている

25

対策(4)健康づくりに関する普及啓発 に向けた取組

- ・かまくらヘルシーポイント(インセンティブ)

市民健康課で実施。ウォーキングや健康づくり
(健診受診、健康づくり講座への参加等)でポイント
をためて、抽選に応募し、商品を獲得できる。

- ・健康づくりアドバイスシートの送付

健診の結果に応じた個別のアドバイスを郵送し、
健康づくりや次年度の健診受診に関する動機づけ
をはかる。

26